資料2ー3

「裁判員制度」指導計画（修正案）

1，目標

①裁判のロールプレイイングを通して、司法や裁判員制度についての関心を高める。
②証拠の整理や他者との討論から事象を多面的・多角的に考察し、総合化して公正に判断する。
③個々の事実を正確に把握して評価し、また、その事実に基づいて自分の考えを適切に表現する。
④刑事裁判及び裁判員制度の仕組みと意義、問題点などについて正しく理解する。

2，指導計画

時	学習内容	学習活動	教師の支援	評価
1	○刑事裁判、裁判員制度の概要について知る。	○刑事裁判及び裁判員制度についての教師の説明を聞く。（１０） ○模擬裁判を行い、証拠となる事象をを確認する。（２０） ○１回目の判決を考える。（７） ○班で証拠を出し合って集約する。（１３）	○パンフレットなどを活用し、裁判員制度について説明する。 ・いつから始まるのか、どんな制度なのか、どんな裁判を扱うのか、裁判員に選ばれるまで、裁判員の役割、評決の仕組み、裁判員に対する保護、守秘義務。 ○刑事裁判や裁判官、検察官、弁護人、被告人、証人などの役割や立場について確認する。 ○事前に生徒の中から演者を選んで練習させておく。実際の法廷の雰囲気を出すために、演技者の配置や服装などを工夫する。 ○授業の始めに全員にシナリオを配布し、証拠となるところに線を引かせる。（有罪：赤、有罪とは言えない・無罪：青） ○個人で判決を考えさせる。 ・初めに「無罪の推定」について説明する。 ・有罪か無罪かの判断とともに、その根拠を明確に示すことがより重要であることを強調し、判決理由をしっかりと書かせる。 ・箇条書きにさせると考えをまとめやすい。 ○班を作らせ、有罪、無罪それぞれの根拠を集約させる。 ・根拠は項目ごとに１枚のカードにまとめて提出させる。 ・カードは、有罪は赤、無罪は青の色に分ける。 ・このときに班で有罪か無罪かの結論は出さない。 ・どんな根拠でも漏れのないように出させる。	○刑事裁判、裁判官・検察官・弁護人の役割、裁判員制度の仕組みについて理解している。（知理） ○事実を正確に捉え、根拠を明確にして自分の考えをまとめている。（資、思判、表） ○自分の考えを分かりやすく表現している。（表）
2	○証拠の見方について知る。	○班ごとに集約した証拠をクラス全体に発表させ、分類・取捨選択し、証拠の見方を検討する。（２５） ○証拠の見方について考える。（１５） ○２回目の判決を考える。（１０）	○班ごとにカードを黒板に貼りながら、集約結果を発表させる。 ○カードは同じ種類のもの同士をまとめて分類しする。その中で証拠とは言えないものを取り除く。 ○次に、証拠の見方を検討する。その際、 ①証拠の二面性に着目させる。 事実によっては、有罪の証拠とも言いうるし、逆にそうとは言い切れない可能性をもつ場合もある。 ②それぞれの証拠の重要性を考えさせる。 どの証拠を重要と見るかで判断が異なってくる。 ③多くの証拠を積み上げ、総合的に考えさせる。 個別の証拠には偶然の可能性があっても、それが度重なれば偶然とは言い切れなくなってくる。 ○「証拠を見るときにはどのような点に気をつけなければならないか」についてまとめさせる。 ・何人かの生徒を指名して発表させ、上記の①～③に整理する。 ○証拠の検討をふまえ、２回目の判断をさせる。 ・このとき、１回目の判決と異なってもかまわない。 ・第３時に評議を行うことを告げ、自分と異なる意見の人を説得するにはどのようなことを主張すべきかをまとめさせる。また、自分が出した根拠の重要度に順番をつけさせる。 ・箇条書きにさせると考えをまとめやすい。	○自分の考えを分かりやすく表現している。（表） ○証拠を見る視点を理解している。（知理） ○事実を正確に捉え、根拠を明確にして自分の考えをまとめている。（資、思判、表）
3	○裁判員制度の意義と疑問点について知る。	○他者の様々な意見を知る。（２０） ○３回目の判決を考える。（５） ○評決を取る。（１０） ○裁判員制度の意義と問題点について考える。（１０） ○感想を書く。（５）	○２回目の評決結果を発表する。 ○班を作らせ、評議を行う。 ・事前にワークシートで生徒の意見を確認し、各班に異なる意見の生徒が必ず入るように班を組み替える。 ・班長を裁判長役として評議を進行させる。 ・人によって着眼点が異なることを認識させるのが第一の目的であるので、結論が出なくてもかまわない。（時間を見計らって討論を打ち切る。） ○班ごとに合意した点、意見対立があった点を報告させる。 ○評議をふまえて、最終的な判断をさせる。 ・２回目の判決と異なってもかまわない。また、班での評議結果にも拘束されない。ただし、理由をしっかり書かせる。 ○クラスとしての評決を取る。 ○評決結果に対する考えをまとめさせる。 ○裁判員制度の意義と疑問点について考えたことをまとめさせる。 ・箇条書きにさせると考えをまとめやすい。 ・何人かの生徒を指名し、発表させる。 ○最後に３時間の授業についての自由な感想をまとめさせる。	○自分の考えを、わかりやすく他者に伝えている。また、他者の考えを正確に理解している。（資表） ○事実を正確に捉え、根拠を明確にして自分の考えをまとめている。（資、思判、表） ○裁判員制度の意義と疑問点を理解している。（知理）

3，評価

①司法や裁判員制度についての関心が高まっている。
②証拠の整理や他者との討論から事象を多面的・多角的に考察し、総合化して公正に判断している。
③個々の事実を正確に把握して評価し、また、その事実に基づいて自分の考えを適切に表現している。
④刑事裁判及び裁判員制度の仕組みと意義、疑問点などについて正しく理解している。